

関係各位

高知県病害虫防除所長

令和 6 年度病害虫発生予察技術情報（第 2 号）

施設栽培トマトでトマトキバガによる被害が発生しました

6 月上旬、県西部の施設栽培トマトにおいて、トマトキバガによる被害が確認されました(写真 1~3)。

本種は令和 5 年 6 月に高知市で初めて誘殺が確認されており(令和 5 年 7 月 14 日付け特殊報第 2 号)、現在までに香南市、日高村、佐川町でも確認されています(表 1)が、これまで県内では、農作物の被害は確認されていませんでした。

本種の主要な寄主植物はトマト、ピーマン、ナス、タバコ、パレイショなどのナス科植物で、トマトでは、茎葉に幼虫が潜り込んで食害するほか、果実にも食入し果実品質を損ないます(写真 4)。

なお、令和 6 年 6 月 11 日現在、熊本県、宮崎県、北海道、愛媛県など計 10 道県で本種による農作物被害が確認されていますが、トマト、ミニトマト以外での被害は確認されていません。

防除対策

- ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺してください。また、被害葉や被害果を見つけたらほ場から持ち出し、野外に放置せずに土中深くに埋却するか、ビニル袋に入れて一定期間密閉し成幼虫を死滅させるなどして処分してください。
- 施設栽培では、開口部に防虫ネット等を設置し、侵入を防止してください。
- 薬剤防除にあたっては、薬剤抵抗性の発達を防ぐため、系統（IRAC コード）の異なる薬剤のローテーション散布を行ってください(表 2、3)。また、海外では、本虫に対して天敵（タバコカスミカメ）による防除効果が確認されています。

表 1 トマトキバガのフェロモントラップ設置市町村と誘殺確認状況(令和 5~6 年度)

市町村名	香南市	高知市	日高村	佐川町	四万十町	宿毛市	大月町
調査開始年月	令和 4 年 5 月	令和 4 年 5 月	令和 4 年 5 月	令和 4 年 5 月	令和 4 年 9 月	令和 4 年 5 月	令和 4 年 5 月
誘殺確認日	令和 5 年 7 月 19 日(2) 11 月 8 日(1)	令和 5 年 6 月 19 日(1) 7 月 18 日(7) 10 月 5 日(2) 10 月 12 日(1) 11 月 9 日(2) 令和 6 年 2 月 16 日(1)	令和 5 年 10 月 12 日(1) 令和 6 年 1 月 4 日(1)	令和 5 年 10 月 12 日(2) 10 月 26 日(4) 11 月 8 日(2) 11 月 22 日(1) 令和 6 年 1 月 4 日(1) 4 月 8 日(1)	誘殺未確認	誘殺未確認 (令和 5 年 3 月 調査終了)	誘殺未確認 (令和 5 年 3 月 調査終了)

注) 調査は月 2 回を目処に実施し、() 内の数字は誘殺頭数を示す。令和 6 年 5 月末現在。



写真1 幼虫による葉の被害（食害痕）  
ハモグリバエ類に比べて食害痕の幅が広い。



写真2 幼虫



写真3 成虫



写真4 トマト果実の被害(熊本県病害虫防除所提供)

表2 トマトキバガに登録のある薬剤(適用作物：トマト) 令和6年6月11日現在

IRACコード*	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数または使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アグリメック	アバメクチン乳剤	500～1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
11A	エスマルクDF	BT水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布
13	コテツフロアブル	クロロフェナビル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
22A	トルネードエースDF	インドキサカルブ水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	ベネビアOD	シアントラニプロロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ベリマークSC	シアントラニプロロール水和剤	400株当り25mL (希釈水量400株当り10～20L)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	ブロッソ粒剤	シアントラニプロロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	ブロッソ粒剤オメガ	シアントラニプロロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ヨーバルフロアブル	テトラニプロロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布

注) シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数は4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)ですのでご注意ください。

表3 トマトキバガに登録のある薬剤(適用作物：ミニトマト) 令和6年6月11日現在

IRACコード*	農薬の名称	農薬の種類	希釈倍数または使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法
5	ディアナSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ラディアントSC	スピネトラム水和剤	2500～5000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ダブルシューターSE	脂肪酸グリセリド・スピノサド水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
6	アフーム乳剤	エマメクチン安息香酸塩乳剤	2000倍	収穫前日まで	5回以内	散布
11A	エスマルクDF	BT水和剤	1000倍	発生初期 但し、収穫前日まで	-	散布
13	コテツフロアブル	クロロフェナビル水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
22B	アクセルフロアブル	メタフルミゾン水和剤	1000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
28	ベネビアOD	シアントラニプロロール水和剤	2000倍	収穫前日まで	3回以内	散布
	ベリマークSC	シアントラニプロロール水和剤	400株当り25mL (希釈水量400株当り10～20L)	育苗期後半～定植当日	1回	灌注
	ブロッソ粒剤	シアントラニプロロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	ブロッソ粒剤オメガ	シアントラニプロロール粒剤	2g/株	育苗期後半～定植時	1回	株元散布
	フェニックス顆粒水和剤	フルベンジアミド水和剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
	ヨーバルフロアブル	テトラニプロロール水和剤	2500倍	収穫前日まで	3回以内	散布
30	グレーシア乳剤	フルキサメタミド乳剤	2000倍	収穫前日まで	2回以内	散布
UN	プレオフロアブル	ピリダリル水和剤	1000倍	収穫前日まで	2回以内	散布

注) シアントラニプロロールを含む農薬の総使用回数は4回以内(但し、定植時までの処理及び定植直後の株元灌注は合計1回以内、定植後の散布は3回以内)ですのでご注意ください。

※IRACコードとは、殺虫剤の有効成分を作用点と作用機構から分類した番号や記号のことで、本コードが異なる薬剤を使用することにより、同一系統の薬剤の連用を防ぐことができます。

※ 実際の農薬使用に当たっては、登録内容を農薬ラベルで確認し、農薬ラベルの記載内容に沿って使用してください。

お問合せは、病害虫防除所(TEL：088-863-1132)または環境農業推進課(TEL：088-821-4861)まで